



栗駒山・ヒナザクラ

令和1年 6月26日 (水)

日本に自生するサクラソウで、アルビノは別として白花を咲かせるものは数少ない。
その中で東北地方に広く分布するヒナザクラはその代表的存在です。

ヒナザクラを見たくなり、一番簡単に行ける場所を探したら、栗駒山が筆頭に
上がってきた。6月は何やかやといそがしくて、せいぜい3日間位しか時間がとれないの
で、栗駒山なら何とか行けそうだと云うことで、天候とも相談して6月26日で計画した。

25日夜、夕食を済ませて19時半に家を出発、厚木ICから高速に乗り、八王子・鶴ヶ島
と圏央道を走り、久喜から東北道に入って一関に向かった。一関ICで下りて道の駅「巖美
溪」で仮眠し、登山口である「いわかがみ平」に行く予定だ。距離にして約500km弱。
JHの表示では所要時間が約6時間である。私一人なので、ちょっときつい距離だが7時間
くらい見れば何とかなるだろう。久喜から一ノ関までが長かった！ 真夜中の東北自動車道
は流通の大型トラックが列をなして走っている。周囲は真っ暗で何も見えずライトが照らす
単純な道路の上をひたすら走るつらさ、いささか参ったが、途中のSAで何度も休憩をとり
ながら、何とか2時半に一ノ関ICを出ることが出来た。予定通り道の駅「巖美溪」で仮眠
をとってから登山口の「いわかがみ平」へ向かった。

幸いにも天気は快晴、7時半にいわかがみ平駐車場を出発して栗駒山に向かった。今日は東栗駒コースを登り中央コースを下って一周するルート歩く予定だ。



駐車場から少し登るとすぐに「東栗駒コース入口」の道標がある。そこを右に入って登りだすが、道はV字型に浸食されたかなりの悪路である。赤土がむき出しで木の根が絡み、水で浸食された段差には梯子が掛けてあったりする。でもいわかがみ平のようにイワカガミが咲いているし、マイヅルソウ、ミツバオウレン、ツマトリソウなど、おなじみの花々が咲き、ウラジロヨウラクが薄紅色でつぼ型の花を沢山咲かせて目を楽しませてくれる。



イワカガミ



ミツバオウレン



ツマトリソウ



ウラジロヨウラク



こんな道をあえぎながら1時間半ほど登ると新湯沢渡渉点に出てパッと視界が開けた。幸い水量が少なかったのが岩伝いに濡れることなく渡渉できた。途中の岩場で一休み。ここまで誰にも会うことなく静かな山を楽しんだ。

ここから尾根筋でオノエランが咲き、サラサドウダンの花の下をくぐる登山道をしばらく登る。



オノエラン



サラサドウダン



と、突然林が切れて視界が開け目の前に東栗駒山が現れた。ここからはミヤマキンバイやマルバシモチケなどが咲くハイマツ帯の中、360度の展望を楽しみながら東栗駒山へと歩を進めた。東栗駒山を過ぎると栗駒山が目の前に現れ、ここからは道の両側のハイマツは

草付きに代りいろいろな花が現れてくる。まずタテヤマリンドウ、イワカガミ、オノエラン、イワイチョウなどが、そしてお目当てのヒナザクラの白い花がポツポツと混じってきた。栗駒山山頂に近づくとつれその数を増し、とうとう一面ヒナザクラのお花畑になった。素晴らしい！



今回はヒナザクラを見るためにやってきたのだが、まさにベストタイミングだった。快晴の栗駒山に満開に広がるヒナザクラを十分楽しませていただいた。ヒナザクラの写真をいろいろお見せしよう。





快晴の山頂で大パノラマを楽しみながらのんびり昼食をとり、ヒナザクラを後にして下山した。



帰りは中央コースを下った。栗駒山山頂への最短コースで、整備されたハイキングコースだが、それだけに単純で花も少なくあまり面白くなかった。

ノビネチドリ、ネバリノギラン、ミヤマヤナギ等の花が見られた。いわかがみ平駐車場に13時過ぎに着いた。

くりこま荘（旧駒の湯）で一風呂浴びて汗を流し、仙台の友人の家へ寄って旧交を深め20時頃までお邪魔してから帰途についた。

帰りも夜通しの運転で家に着いたら朝4時を回っていた。年寄りにとっては少々ハードな山旅だったようで、かなり疲れた。



ノビネチドリ